雲陽志

意宇郡上中下

四

和書門
類 二九二九一號
函
架
冊 一四

内閣文庫
和書
類 二九二九一號
冊 一四
架 九齒一七

内閣文庫
番號 和 29291
冊數 14 (4)
函號 175 135

地四二

内一〇九九八號

国立公文書館
National Archives of Japan

四乙

意宇郡

上中下

国立公文書館
National Archives of Japan

雲陽誌目録

意宇郡上

白潟　乃木
西津田　東津田
矢田　馬潟
八幡　竹屋
出雲江

内閣文庫
一〇九九八號

意宇郡

八束水臣津野命初て國の小所を作り
まし御枝衝を立て意恵登詔故に意宇
といふ則意宇社あきて郡の名とす

松江白瀉

此所唐の松江に地境相似よりて故に前
國主堀尾吉晴此命によつて圓城寺開
山春龍和尚初て名付といへとも太平
記に松江の風に帆をあくるとあきて
古き名なるへし松江の異名を笠澤と
いへとも太守山荘の邊を
笠津と号しぬる事故あるへし
といひ侍ら千早振神代に素盞烏尊爰

ふいまして志羅紀と詔あて此其縁なり古事記ふ青雲國白肩と書しなふ故此所の名とせるといふ俚俗傳ふ歌

立出てみきて長橋秋は夜は

さやりふ照る月のたらりよ

是を又白潟の起なてといふ

大橋

長さ七十五間雲州第一の長橋なて唐は松江ふを橋あり

白潟明神

速稚津姫命をまつり延喜式神名帳風土記ふ載る賣布社是なり世人橋姫は宮といふ何時爰ふ無跡を忘事を

を文禄年中吉川廣家建立の棟札あて祭日九月九日同十月湯立神樂七座は神事あり劔舞御座清浄勸請散供祝祠八乙女是を七座は舞といふ本社の東北ふ素盞烏は鎮座あり御祖神を稱を十一月十二日此神をまつる神寶太刀一腰村正作

伊勢宮

内宮外宮相殿末社の神を祭毎年九月十六日千度の祓四季は神事あて太守源直政公此神を崇敬しをまふ故ふ諸臣等寛永二十一年太神宮を爰ふ勸請し本社拜殿瑞籬鳥居を新ふ造立し神

風内外まおこり祭祀勢州をたゝふ社
邊老松あて左右をも又喬木おほし本社
西向なり階ゝのゝぞきて遠山ゝ對し松
江ゝけそめて前ゝちいさき橋を架し
其下清川流南ハ田園ひろく樵路なゝ
し東北も湖まて往来ゝ旅舶纜をはな
く波ゝ音松の嵐相和して耳ゝみてて
此地ゝ徘徊すきて六月ゝも秋涼を生
もゝれまゝ府中の絶景なて神寶太刀
一腰側光短刀一腰關孫傾六神鏡一面弓矢
あて

幸神

伊勢宮ゝ傍ゝまつる

天神

菅公ゝ流ましゝ古老傳云悪七兵衛景清
能儀郡冨田の城を築ゝんとて當國ゝ
くたれり然ま雙眼をいさむこと甚し
く心身惱乱せり故ゝ菅神をいのてけ
きハ忽霊夢あて明を得せて是をも
つて菅廟を冨田城中ゝ遷て厚崇敬せ
て我の後堀尾氏亀田山ゝ城郭を築せ
まふ時冨田城内ゝ鎮守なきて先菅社
を此所ま建立しゝ別當ゝ天台宗松
林寺と号し臨海山といふ古来ゝて今
ゝいさて毎月連歌を興行も祭日二
月廿五日なり或曰堀尾氏遠州濱松ま

て當國に来る時彼地に菅神を爰に勸
請しそまふとそいひ傳縁起證文殘そ
紛失して由来不詳延寳五年元禄十四
年太守源綱近公建立修造の棟札あり
て

榎宮

何に神をはつるやいなやしらそ社邊
榎有故に此名を呼り十一月中の九日
祭日とそ

天神橋

菅社に前にあり故に橋名号とそ

横濱

此所ふて四月駒市なり

幸神

野木松江に界にあり老松を神とはつ
る

賣豆紀社

下照姫命なて何年爰に鎮座そることと
をしらそといへとも風土記延喜式に
載る所故あるなる本朝に霊神和歌に
鼻祖なて胎妊に婦祈とき必則安産そ
故小朝參暮詣なこそる事なし祭日四
月三日十月十八日なて祠官かふて侍
々毎歳十月諸神此國佐陀に宮に會し
そまふ時先此社に来又此所に歸ふ
ふ諸神に目をつけそまふゆ一目付明

神と申なる世俗目築尾共謂（付と築を和訓似）
て収を尾上れ義ふ
山を尾とい
ふし往昔近村小賣木翁
あり常小神を念して蔬食菜羹といへ
どもかからそまつ孔夜半小山の麓を
過けるに途ゆらしなふ翁目を合神と
念しけきを忽然として火暉山工ふお
こり途ゆてらそたと白日ことし翁
家にかへる事を得ふり此地を号して
白潟といへり翁の裔孫ゆえを今ふい
ふて祭日ふハ粢盛ゆ供ゆ由来縁起
に詳なる八角の神鏡あり裏小八卦七
星を彫付ゆり是を神寶ハ第一とゆ

荒神

本社を去こと六十歩北西の方小あり
祭日十月十八日

八幡宮

祭禮九月十五日

淡島明神

或人病ゆり紀州粟島明神を祈て忽平
和を得ふり夢中小尊像を拜し奇ゆま
つり自刻彫して崇敬ゆ神霊おそれ憚
賣豆紀社邊小遷て俗穢を辟むと請故
小元禄年中小祠ゆ建祭祀三月三日な
り

劔若宮

賣豆紀本社ハ南二町ゆり山頭ふ石

此祠あり俚民傳て甚助といふ者此廟
なり由来詳ならそ

誓願寺

浄土宗木緑山と号そ本尊阿弥陀如来
立像二尺五寸恵心の作なり善導圓光
両大師此木像あり慶長年中冨田此城
を松江へうつさきし時此寺を白潟よ
ひき来て傳譽和尚造立なり輪奐美盡
せりといへとも元禄元年回禄此餘烟
よ羅殿堂法器ともとくく焼亡剰古記
梁牓散失せり是をもつて開基此来も
き詳ならそ本堂此後ハ台徳院殿此霊
堂を新建し御忌日ハ太守拜參怠そ
もそ毎歳正月廿四日衆僧とあつめ
朝暮の勤行闕如なし境内祖師堂あり
左右老樹おゝし傍よ華鯨を懸そ楼
門の左ハ松樹院といふ寺家あり此本
尊阿弥陀一尺五寸四歩聖徳太子の作
なり

寺寶

太守綱隆公御寄附三幅對 觀音野馬之繪 狩野永雲圖之

引接弥陀三尊恵心筆三谷氏寄進
絹地幅一尺八寸竪四尺一寸世俗
絶命ハ及此時傾倒する者多し此
像此病家よ懸十念此すゝむる時

〻則臨終正念よして眼を開三尊
来光に卯相を拜せ霊験奇妙の畫
像なりと寺僧語るよりせて記せ
中将姫蓮糸に弥陀
浄土彩色曼陀羅筆痕ありせ
弥陀名号圓光大師の筆
弥陀像一軀定朝作
観音像一軀運慶作
辯財天　傳教作

専念寺

浄土宗無量山といふ本尊阿弥陀立像
二尺二寸五歩慈覺大師に彫刻なり能
義郡冨田より此所へ移誓願寺同年に
建立なり

稱名寺

浄土宗三昧山といふ本尊阿弥陀如来
立像二尺五寸五歩春日に作鎮守毘沙
門運慶の刻彫慶長年中冨田より爰ハ
移岌把といふ僧に建立なり縁起什物
なし

善導寺

浄土宗光明山と号せ本尊弥陀開基年
歴分明ならせ僧侶傳て云此梵宇〻神
門郡大津村より引き来何人の營作せ
るやしらせ極て壯麗を盡せり

東林寺

浄土宗松栄山と号す本尊阿弥陀恵心僧都の作なり近年回禄の餘災より羅古来志傳記悉焼亡せり故に開山志きせ傍に小堂あり十一面観音を安置せり昆首羯磨の作なりといふ

常栄寺

禪曹洞宗華溪山と云本尊薬師春日の作なり應永年中草堂を結理光菴と号せる事年尚然より永禄年中毛利元就の嫡男隆元此州に来て住侶交要和尚に謁し法語を聞歸依し光ようふ永禄五年八月四日藝州より おいて隆元卒去なり故に元就より伽藍を修造し隆元の霊牌を安置しあふ法号華溪當栄大居士とかふ是より改て今の山号寺号とせり後池魚の災に羅寺寶傳記灰燼となる元就の神判家長四人志添状今なを存せり

宗泉寺

禪曹洞宗祝盛山と号せり本尊十一面観音木勧昆沙門三尊とせり定朝の作なり文安年中松浦氏建立して趙天仲諗和尚を開山とせり往日回禄の餘烟に羅傳記悉焼却せり故に由緒詳ならせり門外常徳菴志舊地あり此寺何時か絶亡せり今せり市店となる

安栖院

曹洞宗源翁流嘉雲山といふ本尊釋迦如来安阿弥ハ作なり應永年中ハ開基湯原氏の建立ゝして趙天和尚を第一祖とす

龍昌寺

曹洞宗源翁流白雲山と稱す本尊十一面觀音地藏昆沙門定朝ハ作なり往昔角新七といふ者佛乘ゝ歸依して已ゝ宅ハ傍ゝ初て一宇をもうけて龍吟菴ゝ号して閑居す其後伽藍を造立し伯州退休寺趙天和尚を請待して開山と慶長年中再興して白雲山龍昌寺と改号す

浄心寺

禪宗圓鏡山といふ本尊釋迦牟尼佛運慶ハ作中古此寺無住の時縁起證文紛失せし故ゝ開基詳ならず古老傳ハ曰新田幸大夫といふ者ハ修造なり

全龍寺

禪宗機雲山と号す本尊釋迦開基ゝ青砥氏なり

龍覺寺

曹洞ハ禪利なり望湖山といふ本尊釋迦應永年中青砥義清ゝいふ者建立

慈雲寺

法華宗啓運山と号し本尊首題釋迦多寶天正年中身延山十七世慈雲院日新の開基也當寺三祖日勤の時冨田より遷て堀尾氏の倍臣牧志摩守といふ者の新建なり寺寶と稱て大衣一條卓圍一張俗いふ敷京極若州の太守寄進しぬる紺紙金泥の法華経二部日蓮消息二通

長滿寺

法華宗圓久山といふ本尊首題天正年中日真上人の草創なり冨田越の後當寺二世日得の造立施主も松島周防な

久城寺

法華宗本妙山といふ本尊七字の首題釋迦多寶なる妙光院日運と開山の第一祖とも冨田より爰ふ移て慶長年中造營も其後回禄ゆ羅法器棟札焼失も

常教寺

法華宗妙法山と号し本尊首題釋迦多寶永亨年中上總の國妙仙寺の貫主日國上人の開基なる昔日火災ふかいて開山の曼荼羅古来の傳記悉焼亡も

恩教寺

真宗東本願寺の末派本尊阿弥陀作者きも宗徳といふ僧の建立なる境内ゆ明覺寺あり弥陀を本尊とも行基の作

なりといふ

西光寺

東本願寺に末流開山たゝき永正年中門跡九代實如上人より書簡ゝ西光寺ゝあり當時まて二百余歳ゝおよふ寺ゝ門内還来寺といふ小菴あり本尊阿弥陀

本龍寺

真宗本尊阿弥陀如来此寺冨田に新市村ゝあつて浄専坊と云り慶長十三年爰ゝ移て本龍寺と改号ゝ立、像に阿弥陀一軀あり聖徳太子に作寺寶の第一とゝ真光寺三恩寺と云末寺あり

明宗寺

真宗光樹山と号ゝ本尊弥陀慶長年中冨田より移て釋の教誓を開山とゝ圓照寺といふ寺家あり

永泉寺

東本願寺流可野四郎清信といふ者造立ゝ法号一向坊是を開山とゝ本尊阿弥陀如来

妙興寺

法華宗亀瀧山といふ本尊首題釋迦多寶開山と日徳上人と号ゝ此寺往昔仁多郡亀嵩村よりて太明寺をいしし故ありて能義郡冨田城下へ曳うつ

し其後又松江城下に精舍を建けり曼
荼羅一幅日目上人七十四歳の筆日蓮
の消息是ハ寺寶とせり

来迎寺

浄土宗海中山といふ古き浄土寺と号
元和四年久徳源左衛門といふ者此地
を求て今ハ寺号とせり本尊阿弥陀安阿
弥の作なり久徳ハ堀尾家の陪臣なり

信樂寺

浄土宗獨留山と号せり本尊弥陀安阿弥
ハ作なり慶長年中冨田より此所へうつせり開基年歴ハ未詳
子十六歳自作なりとて木像を安置せ
ル一宇あり輪響上人再興せ

徳專寺

真宗稱名山といふ本尊弥陀如来立像
なり寛永年中に信沙門の開基なり

正源寺

東本願寺ハ末流なり往古此邊を経塚
とて砂山なりしを祐念といふ僧初て
寺を建立し開山となる本尊阿弥陀

徳專寺

東本願寺流西念といふ僧の開基なり
寺ハ横濱にあり

願故寺

浄土宗本尊弥陀安阿弥の作なり願故

といふ道心建立せ

極樂寺

浄土宗本尊阿弥陀開山志き

十王堂

おや山といふ所あり

洞光寺

曹洞宗金華山と号す本尊釋迦如来安

阿弥ハ刻彫なり尼子経久冨田の城ふ

あるて鎮雄和尚を請待し伽藍を建立

しゆふ則経久ハ神主影像今猶存せり

経久の嫡男晴久ハいよ〳〵當寺を曹洞

一派の僧禄とせり冨田落城ハ砌證文

傳記悉紛失せ其後毛利家の領國とな

り數百貫ハ地を寄附せら弘堀尾氏冨

田の城を松江へうつさきしよりこ此寺

も又爰ハ造立せ境内藥師堂あり尊像

安阿弥志作なりとて世人崇敬せ大門

ハ前より直ハ登行て本堂ふいたる前

庭せ廣して白櫻青竹處々ハ郡苔厚し

て自塵なし後せ深林ふして雜樹つら

なり左右せ田園山路なり寺ハ入て戸

ハひらけて完湖ハ遠帆津田ハ平砂一

望盡せり是近邊の奇觀なり寺寶と稱

して青磁香爐花瓶磬鐃鉢尼子伊豫守

の寄進

阿弥陀堂

おゝ山まあて

阿弥陀堂

清水谷ふあり

乃木

野木神社

祠官是と中の宮といふ大已貴ㄟ社を
青木の宮といふ事代主の宮ㄟ西の宮
といふ三坐由来ある所どころ永禄
五年再興ㄟ棟札あて往古々年中ㄟ祭
禮三十五度就中九月八日本社よて牧
島一御幸なしてまつり品々の神事
あてしゝ豊臣秀吉より社領没収せら
き其の後毛利尼子両将合戦ㄟ時兵火
ㄟ焼めふ社焼亡して今々三神を西宮
と一所ま配合して年中四度ㄟ祭禮な

山王社

王子権現

竹生島明神

古老傳ま曰堀尾忠晴牧島小辨財天ㄟ
社と建立あてしとなて

妙見

里俗濱の宮といふ妙見島とモいて
社記棟札なけきて無跡造立いまゝ詳
ならそ祭日九月廿八日まて廿九日ま

て湯立神樂あり古ゝ祭祀以前より一七
日野白川乃木幸神小札を立て穢る者
を入ゝ下馬下輿をなし此中神事ハ馬
ハ牽しゆゑ永引濱といふ

川上神社

八幡宮

此両社妙見社邊より鎮坐

稲荷

當努貴といふ處ふ勸請

隅能御前

古ゝ湖邊より本社あり

荒神十五ヶ所

婦島

野代海中ふ此島あり風土記ふ曰蚊島
周六十歩四方並磯海松あり俚俗よめ
島といふ天平の頃ゝ出雲大河伊努郷
より杵築ゝ流神門の海ゝ入故ふ潮な
りつて此島海松ゝ生ゝるゝ其後河
水三太弥平田ゝ流落湖となり今ゝ海
藻ゝ生せさ孫なり古老語て云往昔旱
魃ゝきふ野木明神を此所ゝ神行なし
奉ゝ雨をいのゝきゝかならゝ雨降とな
ふ近来善光寺の如来を舟ふて出し僧
侶経をよみ雩ゝ恨らくゝ世俗善光寺
ハ佛を崇野木ハ神ゝ事をあちゝ呼
哀哉神在て亡ゝふとし

津麻桜池

風土記に載る所周二里四十歩今は路
はして十二町四十間なり

圓城寺

禪宗關山派鏡湖山と号す本尊釋迦如
来長八寸春日の作なり開山は妙心春
龍玄濟禪師慶長年中堀尾忠晴冨田氏
城安寺を島根郡荒和井に移伽藍を造
立して龍翔山瑞應寺とあらさめ一家
累代の神主を建せらる寛永十年嫡孫
忠晴逝去は後瑞應寺を今の地に遷て
山号寺号をあらさむ圓城の二字は則
忠晴は法号なり寺は松杉欝々せる所
に有り本堂は前菉竹猗々として長竿
高林に門を出て田園漸々にして
て畦路縱横せり辰巳の方に宇賀明神
は社あり是を當寺の鎮守とす後は松
江の湖水左右を亦赤壁なり清風明月
共に詩を題し歌を詠する者多一葉に
棹さし綱をひき釣を垂るもあり誠に
繪にも寫しかたし此景色なり寺寶
釋迦文珠普賢の畫一幅堀尾忠晴は御
母堂長松院殿藕糸をもつて縫ふ釋
迦文珠普賢一幅其外十六羅漢二幅對
勅許は紫衣大祖の傳衣あり

別願院

浄土宗山居といふ知恩院霊巌上人の
開基影像名号一枚起請各一幅此上人
の真筆なり本尊阿弥陀慈覺大師の作
光乗寺
時宗四條流寶照山と号す本尊弥陀觀
音なり
圓福寺
時宗慶陽山といふ本尊阿弥陀昆沙門
善光寺
時宗遊行流一碕山と稱す本尊無量壽
立像一尺八寸闇浮檀金にもつて鞍作
鳥（椎古の時の人）陶鎔する霊佛なり宇多天皇
九代の後裔佐々木源三秀義の四男左
衛門尉高綱正治年中世を棄て發心修
行の志あり此如来を頼朝の守本尊と
乞し申請すなりもつて負せてよつり心
瀧法師と号して藤澤時宗上人より謁四
知圓明の法を聽權現直道の説を受頓
悟して名を正阿弥陀と改諸州を巡行
し偶此州小さとに頓て尊容正阿に對
して奇瑞あり故小建久元年此所を開
蘭舎を造立し如来を安置し奉てはつ
孔事關東小達し寺産若干を納めふ兄
太郎定綱小隠州を賜ふ五郎義清小雲
州に住まして民戸を此寺小寄附せし
より今小いたるまて念佛三昧の道場小

り誠に一念の至信をもつて無窮の功
徳となす是ぞ法お以て正阿弥陀を開山
し祖師第一とす由来縁起は詳なる如
来金佛なりとて盗人幾度か取侍とも
佛ぞいなりまして退所とならす是よりて
偷兒寺を窺ことなし旱魃ふ々如来を
船に乗せてまつり湖上に泛佛軀を浴
して雨をいの乱時々則其雨滂沱とし
て稼穡豊稔也其餘の霊験すくなしも
せす鳴呼衆人の遍知所一人の私言ふ
あらさるなり建保四年二月十五日高
綱法師行年七十五ふして往生の素懐
成とげぬ其後五十餘霜を経て寺僧村
老一夕おなしく夢む光玉はたとくな
る物須弥壇上ふ出現して自稱して我
は是高綱入道か精霊なり神魂は宅を
脱して菩提の縁に證す群生をして視
しめよ葬掩ことなかき翌旦一箇の髑
髏壇上に儼然として神光を放厚おそ
き支凡俗の頭骨にあらす衆夢一致ふ
して高綱を教こととし乃則丈室ふ納
て寶物は負に巻なふ又一奇事なり堂
前ふ高綱は石塔あり門に入て觀音を
安置せる小堂あり尊容行基の作なり
古へ福應寺と号して寺外ふありしか
近年零落して爰に移す順禮札所の三

十二番なる鎮守熊野權現の祠あり心
瀧坊の勸請寺寶と稱して觀音繪像太
守綱近公より御寄附なる如来厨子（横二尺外黑塗内金）高三尺
高綱發心して廻國修行し時
當寺の如来を此厨子に入負ひ來るといい
つたふ

雲棲菴

善光寺より老僧爰に隱居せ

昆沙門堂

宇賀といふ所にあり

觀音堂

當努貴にあり

十王堂

新町にあり

辻堂二ヶ所

西津田

大山代神社

大山祇命なる此社濱津田村より南山に
ゐり縁起なし故に勸請年歷あきら寛
永十九年造營梁牆あり

權現宮

伯州大山より大智明神を勸請せ何時何
人の爰にまつるやいまゝあきら社せ
南より山にあり慶安万治元禄まて修造
の棟札あきら慶安以前より社なる一し

祭祀四月廿四日大山へ拜參なりかゝ
る老少兒童此宮へ詣る者多
荒神三ヶ所
七面明神
弘安年中甲州身延山より日蓮上人説
法の時出現の霊神なり由来縁起小詳
なり和田山安樂寺と号して神宮寺の
り坂根氏造營そ
常喜寺
禪宗法隆山といふ本尊地藏作ゑまそ
月叟亮亂和尚を開山とそ
觀音堂
里民吉安寺といふ
地藏堂
往昔福應寺といふ
善福寺
禪宗法龍山と号そ本尊十一面觀音開
山々安國寺中興立翁和尚なり

東津田

鷹日神社
高皇産霊尊なり高日山といふ風土記
延喜式に載る多加比社是より天正十
八年大江朝臣輝元造立慶長十八年栗
山伊賀守重廣新建此棟札あり祭祀六
月十五日神樂を奏そ九月十九日鯛十

三を獻して七座の神事あり村祝氏
子進退の席を定祠官祝詞を申す神酒
鱠を拜飲す
八幡宮
辨財天
今宮大明神
三社ハ神事高日祭日よおなし
稲荷
高日社を去こと一町ばかり山中小鎮
座
日御崎
祝氏御崎ハ神を崇敬して爰小殿宇を
造立す

剱若宮
此宮目築山上よりあり故あてて高日山
小モ勸請す
荒神八ケ所
幸神森
長源寺
禪宗鶴林山と号す本尊正觀音開基建
立ときす鎮守御崎社あり
阿弥陀堂
安樂寺といふ由来志ある
觀音堂
高江山岡谷両所小あり
十王堂

松原神守両所あり

定照菴

本尊觀音此所を高江山といふ

矢田

兒守社

本社三尺五寸より四尺てつ

御崎神社

三尺四方ハ小社なり勸請年歴未詳

馬潟

馬潟原

永禄四年四月尼子三郎四郎義久同九郎四郎倫久兄弟八幡星上より陣を取て大江羽林と相對して白鹿の城ハ援兵攻落さきて白鹿の城ハ守護松田藏人も遠流ふ處せらき義久倫久大ふ怒て自鎗をとて出馬潟原より陣を取ていし傳孔々

富士山文庫

此所なり

土橋

土人此橋を間渡といふ

王子權現

緣起なし故ふ奇跡勸請ふきて宮地を王子の森といふ祭日正月十八日九月九日なり社中荒神を祀つる

阿弥陀堂

本尊行基ノ作ナリ

八幡

平濱八幡

應神天皇仲哀天皇神功皇后三神ヲ一社ニハフル此神諸州ニ蚤跡シヌフ珠ヲ當國ニハ八所ハ八幡ト稱シ處々ニ勸請シ斯宮第一ト云山ヲ御笠ト号シ河ヲ放生ト云フ本社南向拜殿隨神門鳥居車行殿アリ社記縁起ナケレハ遷座年代忘レシ應永十一年佐々木氏造營ノ棟札アリ應永以前ハ勸請ナラム

祭禮年中廿六度就中二月初卯ノ日社司祝子集テ百手ノ的九度ノ舞榊梅花トカヤ品々ノ神事アリ八月十五日大放生會神輿ヲ山下ノ車行殿ニ下シテ流鏑馬アリ祭終ヌレハ神輿ヲ山上ニ入レテ本社ノ左右ニ柳栢ノ大木アリ東ニ小丸山アリ是ヲ御寶山トイフ此所ニ長サ八尺余横四尺ヲカヘリ岩舟アリ御寶舟ナリトイフ大鳥居ノ前ヨリ東ヘ流ル川ヲ八幡川トイフ此則放生川ナリ八幡灘ニ檢校島トイフ所アリ當社ノ神職ヲ繼人彼島ニ來テ一七日潮ヲ汲清シテ社籠ヲ

遂といふ神主伐検校と号し宣旨勅許
古證文あり神寶と稱て太刀八振寄進
おきも鎧甲堀尾山城守忠晴社寄附錦
社袴忠晴の御母堂の寄進
熊野權現
若宮
武内社
本社の左右ふあり
荒神二ヶ所
大將軍森
三神八幡社中の古樹伐まつる毎歳十
月八日祭日とも
王子權現

本社を去事五町ばかり古本をなぶる
十一月十八日祭禮あり
加波羅明神
八幡本社を去ること八町俚民社曰斯森
高良明神の社跡なり祭日九月廿八日
昆沙門堂
八幡社馬場ふかり
阿弥陀堂
濱八幡ふかり
辻堂
八幡町ふあり
迎接寺
真言宗道籠山と号ス本尊阿弥陀春日

此作開山鏡智上人来歴ゝれも護摩堂
の本尊土佛不動弘法大師此練作なり
鎮守高野毋生明神の社鐘楼あり此鐘
古八幡社中ゝありしを寛文年中當寺
へ移といひ傳門外ゝ地藏堂あり弘治
年中まてゝ八幡此社僧六ヶ寺あるし
と尼子滅亡以後神宮寺寶光寺能滿寺
觀音寺菩提寺皆零落して迎接寺一宇
殘る寺寶と稱して聖德太子自作十六
歳の像大黒天弘法大師此作毘沙門運
慶此作金胎両部此曼荼羅二幅亀井能
登守秀綱寄進灌頂道具永代散失ある
よしきよし衆徒中一亀井秀綱より漆
狀あるに戒躰箱玉此幡唐此鏡今なを存
此尼子晴久の證文三通
虚空藏
溪谷山寶光寺此本尊なり勢州朝熊此
虚空藏同作なる
阿弥陀如来
安阿弥此作菩提寺の本尊
正觀音
行基此作觀音寺の本尊
阿弥陀
春日此作長六尺餘神宮寺此本尊なる
八幡坂
土橋

此川を放生川といふ土人魚つり橋と
号す
城山
角森といふ城主たりき
竹屋
手間天神
少彦名は神廟なり本社南向寛文三年
太守源直政公造營棟札あり祭日正月
廿五日五月廿五日九月廿四日年三度
の神事なり柳手間といふことゝ千早
振神代ゝ太巳貴命當國五十狹々は小
汐ふいきりたふとき海上ゝ忽人の聲
あり乃驚て求ぎまふゝ都よみゆるゝ
ぎなる頃時あり一箇小男あり白蘇
皮を舟として芝ゝ浮いゝ
孫太巳貴命即取て掌中ゝ置て翫ゆい
しかも跳て其頬を齧てけり命ハ物色
怪ぎまひて其名を問ゆ一とも答ず使
を遣天の神ゝまうす時ゝ高皇産霊尊
聞召て曰吾産所の兒化一千五百座あ
り其中ゝも指は間よりも漏墮しゝ必彼
ものならひ此をゝ少彦名命なり手
俣より落ぎまふゆ一ゝ爰を手間とい
ふ五條の天神と同躰なり此神身形短
少なりし故此名を待ぎまゝ初太巳

貴命と少彦名命とに力をあはせ心を一
ふして天下を経營病を療ぜ方を定鳥
獸昆虫のことさらしを攘ぞめ禁厭ぜ
法を定めふこゝを日本紀に詳なり洛陽
ふてゝ今も節分に人皆詣て餅求を奉
疾病をのがれんといはきゝ是又神代
の遺風なるべし手間ゝ偏土なきも吾
國祖神の名をゝ天ふらて天滿といひ
天神と濁菅原天神に混るゝ非なり
天真と清て讀べし世俗今はいさゝ北
野ぜ聖廟とおもひて除夜に詣る事も
なく霊神ぜ威力をたらさるこそ本意
なけれ僅民語ゆるゝ毎年除夜にゝ無

量ぜ烏賊魚とも此島ぜ邊一聚侍を漁
人網を曳て取けるに神祠一叢詣を遂
ゝ黒点あり叢詣とゆ
さりし魚に黒点なしとゝ水魚ゝらこ
ぜ神祠一詣ゆるこそ有難けき此島海
中ふあつて古木回巖風色ゝくきて國
中ぜ一蓬莱なり風土記に塩楢島とあ
るゝ此處なり古に關あり又歌枕に限
關といふも同所なり古歌に

六帖

八雲立出雲ぜ國の手間の關
いゝなるてさに君さてるらむ

六帖

ぬてゐをし人してみむや吾せこを
といめゐねてハ手間と名つけむ　左大臣

玉吟

待月ハ手間の關屋の板間あらこ
かけそ光ら秋風そ吹　家隆

玉吟

君ゐ代ゐ雲吹そらへ天津風
ふ一てゐ一らむ手間ハ關山　家隆

新撰六帖

暁ハ袖の則をゐはしとて
ゐ手間ハ關守　知家

堀川百首

ひとそ思しゐとそハ雲立
手間ハ關ゐ秋ゐとまらそ　師頭

社邊ゐ長ゐ八尺横三尺をゐて舟ハ形
なる石あて神ハ御舟をいふ

稲荷

稲倉魂命ハ社ハ即稲荷森といふ所ゐあて貞享二年ハ建立棟札そゐて
なり祭祀二月初午の日九月十五日十一月十五日なて社中ゐ荒神ハまつ

る古松を神樹とも

容明神

民家は南八町去て田中小松を神木と稱し祭日十月初子は日小大幣廿八本

十二本神供御酒を獻ス

安國寺

禪宗寶亀山と号ス本尊十一面觀音往古八圓通寺といひし暦應年中尊氏將軍建立しまふ支ふ又今は寺号小改一國一寺の大伽藍とも開基も高叟和尚なり堂前小老樹あり坐禪松といふ昔々寺家三十二院ありといへとも頽破して今々わつか小一寺はてきり新田足利佐々木尼子代々は證文數通寺寶とも鎮守八幡稻荷なり境内池あり辨才天を祭勸請年歴ハきも

國分寺舊跡

天平年中聖武天皇は建立古老傳云一國一寺の伽藍なり本尊藥師如来

藥師堂

法華寺と号ス

蓮光寺

寺跡てハなり

大日堂

石佛あり土人無堂寺といひつゝふ

る古松を神樹とも

客明神

民家より南八町去て田中ノ松と神木と稱ス祭日十月初ヨリ日ノ大幣廿八本小幣七十二本神供御酒を獻ス

荒神十ヶ所

安國寺

禪宗寶亀山と号ス本尊十一面觀音往古ハ圓通寺といしに暦應年中尊氏將軍建立しまふ夫より今ハ寺号ノ改一國一寺の大伽藍とも開基ハ高僧和尚なり堂前ノ老樹あり坐禪松といふ昔ハ寺家三十二院ありといへとも頽破して今ハわつかノ一寺ハこれ

新田足利佐々木尼子代々ハ證文數通寺寶とス鎮守八幡稲荷なり境内池ノ弁辯才天を祭勸請年歴ハ未詳

國分寺舊跡

天平年中聖武天皇ハ建立古老傳云一國一寺の伽藍なり本尊藥師如来

藥師堂

法華寺と号ス

蓮光寺

寺跡ていなり

大日堂

石佛あり土人無堂寺といひつたふ

大門

往古安國寺ハ山門此所ニあり故ニ大門といふ

亀井塚

揖屋明神より出雲江足高神社一別火稲の初穂を持て獻ル神事あり此時揖屋より出雲江まであら薦を敷意東坂より竹屋大門まで往来ハ人をとむ然ル勢州亀井氏某無二無三ニ神事の路を通しゝ俄ニ日暮のゝいちして病おもく終ニ死セとなり故ニ塚をはけ日暮松とて今ハ繁茂せり

古廟

大門ハ傍ニあり佐々木大膳大夫の墓なり

出雲江

風土記ニ伊弉奈枳乃麻奈古座とあり俚民出雲里と書てあるが一ツ讀或人ハいてく加茂ハ競馬ハ事書ヲ見るニ出雲江の馬一疋とあるをあゝかゝと假名付ヲ語ゝきゝ中古よりいひならせる事ニや出雲江ニモ阿太加夜ハ神社を勸請セ故ニ本名出雲江といてもして阿太加夜ヲいひけるゝやいまゝ詳ならセ猶博覧の

人小尋色し

足高明神

素盞烏尊なる風土記小意宇社ある延
喜式ハ田中社となり此則阿太加夜
社なる面足尊惶根尊を相殿ハ配はつ
る大穴持命ハ御子阿陀加夜怒志多伎
吉比賣命ハ神門郡多伎小坐ハなる
今此里小阿太加夜社勸請なる面し寛
永八年堀尾高階忠晴修造ハ棟札あり
祭日九月九日本社の北ハ御影濱ある
御寄濱とも云ふ明神御幸ハ地なる土
人横濱ハいふ祠官傳て云往昔洪水社
邊ハ滿々ハる其時當社真ハ御柱小蠹

あり歌ハ

玉水なりとも

神風小伊勢ハ

面足山を惶根小して

其後本社炎上ハ時小三躰ハ神輿馬場
ハ松三株小つらせるふ今小神ハ
輿掛松といふ古證文蠹の柱此火小燒
失神寶と稱して神劔一振神鏡一面鉾
三本此鉾寛文十一年社邊の意宇川へ
流来兒童ハ拾を見出して祠官小告則
ひろひあげて寶前ハ納置なる俚民ハ
の来所を知らず

須多社

白尾明神なる

同下社

荒子明神なり

右二社風土記に載る所なり

若宮

宇賀魂命なり

頓勢後勢社

級長津彦命級長戸邊命なり

荒神

青木權現

伊弉冊尊なり

辨財天

日御崎

春日明神

摩多羅神

天王

浄土寺

願海山無量壽院といふ本尊阿弥陀如来安阿弥が作なり良翁和尚を開山と

藥師堂

土神向寺と号す開基年歴たれす寺中小古藤有り花の時は樹頭より波をかけ龍蛇はだとさかまるかと見物の貴賤眼を おどろかす

浄圓寺

真宗東本願寺の末派なり釋が正善を

開基とも慶長十九年寺号免許の證文あり

宗淵寺

禪宗卧龍山と稱す本尊釋迦鎮守天神

辻堂十ケ所

土橋

橋長さ二十二間風土記に意宇川あり

大庭川此流といふ

古城

此山町より八町南北方なる城主志き

此山町より八町南北方なる城主志き

錦浦

民家を去ること五六町海邊を錦浦と

いふ道明法師此歌

後拾遺

名に高き錦の浦を来てみきて

かつゝぬ海士をすくなりけり

天正十五年細川玄旨西國へ下りしとき

し時此浦に舟をよせて

舟よすゝ錦此浦の夕浪に

ぬいむ中ゝ名殘なるかな

連歌師宗養が發句

花鳥や錦此浦のうゝ藻哉

神師浦

古老傳に曰意宇郡出雲里の海邊錦此

浦につゝきたる所なり

後拾遺

から衣袖師の浦の濡れ貝

空き戀ふ年の色ぬしむ　藤原國房

新勅撰

よる浪はすいしくもあるゝ敷妙の

袖師の浦は秋の初風　藤原信實

續古今

戀すてふ袖師の浦に引あミは

めふせよらぬ涙成けり

續拾遺　三位成實

他人の泪や海のなみだ色やら

袖師は浦ふ立ぬ日もなし　俊頼朝臣

新續古今

いらてせふふさぬ袖師の浦千鳥

いらふせよとて寐覺とふらん　持世朝臣

千五百番

春来てゝ霞は衣いくかさね

袖師は浦の浪や立らむ　隆信

丈木

沖津風身やゝ寒むらもかゝ衣

袖師の浦よ千鳥鳴なり高逆

塩はみつ袖師は浦のかゝとなゝ

あしへは鶴の音とのゝ聲鳴　定範

身ふあまる思を人ふみせむとて

袖師ヶ浦ふ飛螢ハな　小宰相

新葉集

佐保姫の袖師ヶ浦ふあさ衣

ぞち重てモ見ゆる春哉中宮

わすてみる袖師ヶ浦の春ヶ月

宗養

雲陽誌目録

意宇郡中

福留　野白

布志名　面白

湯町　玉造

林　大谷

東来待　上来待

西来待　完道

白石　佐々布

伊志見

意宇郡

福留

福留神社

吾田津姫を祭寛永廿一年雷火ゝ焼亡同廿二年建立棟札あり一間四方ゝ社なり鳥居松とて古木あり

祭禮九月十八日

貴布祢社

高靇神を祭老松を神木とゝ五月十五日十一月五日湯立神樂を奏ゝ

笠御崎

神号いまゝ考ゝ

角能御前

右ハ おゐし

荒神

竹園寺

真宗東本願寺派本尊阿弥陀境内神宮寺あり

観音堂

地蔵堂

野白

野白社

風土記ハ野白社とあり友曰山ハまつる本社一間四方慶長年中建立棟札あり古回禄ハ罹て縁起寶物ハとくく

焼失ス祭禮正月九月千度ハ秡七坐の神事あり

新宮權現

本社を去ること一町北の方

留宮權現

本社ハ二町北ハ方

日御崎

本社より十五間南の方

荒神七ヶ所

水神

山王社

素盞烏尊をまつる本社二尺四方東向

泉谷といふ所ハあり神前の川を御手

洗といふ風土記に載る野代川に意宇郡の堺潮郷内須我山より流出て忌部乃白福留乃木村を過て海に入る此川なり正五九月小祭祀あり

八釵神社

此社山王に北にあり

荒神

水神

山神

福正寺

禅宗金光山といふ本尊阿弥陀

辻堂

紙漉

此川に流水にて紙をすくなり越州濃州の奉書紙にもおとらずといふ

野白川

此邊夏日螢おゝし

布志名

布自奈社あり故に村の名と共後醍醐天皇船上潜幸に時叡感ふかつりし八此冨士名判官なり

高太明神

延喜式風土記に載る布自奈社是なり高皇産霊をはつる本社一間四方西向なり縁起證文なし貞享年中造營棟札

あゝ祭祀九月廿九日

稲荷明神

荒神廿ヶ所

幸神

明國寺

禪宗妙心寺派佛経山と号そ本尊十一

面觀音立像長さ一尺五寸此寺布志名

判官比建立元昌禪師を開山とそ

福王寺

禪宗本尊弥陀藥師

清源菴

禪宗本尊觀音

辻堂三ヶ所

古塚

布志名判官比墓なり

面白

杉谷明神

若宮

幸神

荒神

神宮寺

禪宗鎮護山と号そ本尊釋迦

觀音堂

湯町

恵比須宮

荒神二ヶ所

報恩寺

真言宗古儀養龍山安樂院と号し弘法大師は開基なり本尊十一面觀音立像長一丈四尺五寸運慶は子式部郷康運の作なり尼子経久より堀尾吉晴忠氏忠明まて代々は祈願所なり慶長十五年造立は棟札あり華鯨々長松院殿は寄進なり摩利支天堂々寛永年中高階忠晴建立しゐふ本堂東は方小大門は跡あり古々大昌寺浄土寺證明寺光明寺極樂寺藥師寺大樂寺といふ末寺あり零落して今々寺号も分明ならす鎮守春日明神の社中女人を禁ぜ申来る きゝ寺寶と稱して摩利支天の像長一寸二歩左右地藏不動弘法の刻彫なり堀尾忠晴は守本尊といふ大般若経一部堀尾采女寄進ぜ

藥師堂

浄土寺といふ

地藏堂

正明寺といふ

辻堂三ヶ所

玉造

玉造川

風土記に載る此川忌部郷内大谷より湯町に西を流て海に入

温泉

風土記に忌部に川邊湯を出て出湯に
ある所海陸を兼ぎり男女老少一度濯
ぐに忽ち形容端正なり再あらに
万病悉除古より今に いにして効るし
を得ぐといふことなし故に俗人神湯
といふ玉造の湯是なり古老傳に曰往
昔湯船に神里長等に詔宣ありて此温
湯を掌つに求近里遠村より群集して
浴ぐに効ぐに其功を得ぐて此所を湯谷
といふ其後洪水の災めに破損ぐること
を年ひさしあるとき佐々木義綱病あ
て家臣綱久夢中に一僧来て告て曰玉
作に川邊温泉あり其きを浴せば忽平
和ぐ色しと夢覺て綱久此邊を尋ぬ
るに湧出ぐる温湯あり幸に薬師に霊
像を掘出せて今に薬師堂の本尊是な
て義綱温湯に浴して其病を治ぐ竟に
綱久に命して一室を泉上に作如来堂
を建供養に夜月東山に出て影温泉に
移けぐて義綱

瑠璃光に心々真如に玉作

薬の湯に月を入けて

と詠しけるに次第に繁昌しける天正
年中地震大雨に一宇もけらも湯潭
もなりき如来もりて長谷川氏の家に
泊寛永年中堀尾忠晴再浴室を造ふ
又本湯より南玉造川に傍て一湯を置
旱賤湯資なき者此に浴せ河水滿溢
するときそすかもち湯地水中に入故
湯屋なし凡疥癩癬瘡金瘡食瘡および
一切の瘡痍并ならく是を治せ太守直
政公も亦浴しふ綱近公の御時よい
そて石壁を築浴室を修理して諸人の
病苦を憐そふ故に都鄙遠近より群
集して温湯の繁花ひりしに倍せり

八幡宮

此神世人あまねく知る所源家崇敬の
霊神なり昔年池魚の災に罹當社の舊
記古来の神寶ともくく焼散せ故何
代何年爰に鎮座しふもしきせ天文
以前佐々木氏造營の棟札あり本社二
間に三間西向祭祀十月十五日神行流
鏑馬又十七屋敷といふ神事あり湯町
より壮年の者十七人出して是に芋豆
餅神酒をそなへて拜殿に居しむ神功
皇后三韓へ渡海の御時船子の遺風な
りといふ社中に失立の松あり古此樹
頭に鏃あり八幡大神と銘を彫是を神

寶山等一と其南に山を鳩山と唱ふ所

武内社

根尾明神

稲荷明神

玉井宮

湯潭より南なる俚民いひ傳へを千珠

滿珠に兩顆をまつりとり今此社な

し

荒神十七ヶ所

湯船明神

櫛明玉命を國風記に載る玉作

湯の社一坐とあるを是なる歟と古語

拾遺に出雲に國玉造と記せるハ此所

なり温泉より一町ばかり東の方樹林

鬱々たる所にいまる本社一間に一間

三尺西向なり永禄元年より貞享年中

まで建立修造の棟札あり祭日九月九

日なり社邊小神石あり晴天にハ萬物

影をうつす故に土人鏡石と号す

稲荷明神

天神

荒神

清岩寺

禪宗温泉山と号す本尊藥師立像長八

寸安阿弥に作なり瑞岩和尚を中興と

す開基分明ならず

巖屋寺

禪宗松峯山と号て本尊觀音長七尺二寸安阿陀ハ作當國順禮札所の内なり一間半二間の岩穴あり往古觀音を爰に安置て故に寺号ともて元禄十五年新に小一宇を造立して尊像を遷て

藥師堂

温泉ハ前に小あり古此所より堀出し也る如来なり

辻堂五ヶ所

林村

拜志郷樹林茂盛天下を造所ハ大神吾御心の波夜志と詔故に林と号ふ神亀三年字拜志と改

風宮

素盞烏尊をまつる風土記に布宇社あり是ならむの縁起なし故に蚤跡勸請年暦志ともて本社七尺四方西向なり祭禮十月十三日杵築兩國造新掌會に毛此宮へ參詣しぬふ元禄年中今ハ社建立

石上明神

倉田明神

王子權現

若宮

岩来明神

荒神

妙見社

社司傳て下照姫をぱつるといふ本社

一間四方東向此所を別所ぞいふ九月

九日祭祀あり

幸神

荒神

山神

頼清寺

禅宗華亭山といふ本尊十一面觀音湛

慶の作頼清ハ開基ぞいふ源家肥後守

頼清ゝ由来詳なら𝍏頼清ハ信ハ子

頼義ハ弟なり

子安觀音

根尾といふ所ゟ堂あり

宍藥師

本堂別所といふ所ふあり

辻堂三ヶ所

古城山

古老傳ふ曰大野次郎左衛門といふ人

ハ居城なり年暦分明なら𝍏

大谷

一人女明神

大日靈尊をぱつる本社一間四方西向

なり天正九年寛文十三年建立棟札あ

て縁起なけれども勸請志を其祭禮九月
廿五日
山王權現
王太子宮
荒神
了知寺
禪宗金王山といふ本尊觀音
毘沙門堂
法藏寺といふ
觀音堂
勝福寺といふ
地藏堂
金山寺といふ

辻堂二ヶ所
古城
内細といふ所ふあり城主志を
古城
奥大谷ふあて城主大谷伊賀守といふ

東来待
俗来海と書あやまりの風土記ふ来待
と記す
山王社
素盞烏尊なり本社一間四方西向境内
東西二百五十間南北二百九十間寛文
年中太守源直政公修造棟札あり祭日

六月十五日なり

玉神社

十二社權現

荒神四十三ヶ所

弘長寺

禪曹洞宗金寶山と号す本尊阿弥陀開基々左衛門尉藤原朝臣滿資なり極樂寺平重時寂明寺平時頼両君はじめ弘長三年此寺を建立す永亨年中碧弥三郎寺産寄附して實菴和尚を請待し弘證文寛文年中造立は棟札今かなり

来迎寺

禪曹洞宗海雲山といふ本尊阿弥陀春日仏作なり土御門尊碑なりとて本堂の南小祠あり由来未詳

金剛寺

禪宗法照山といふ金胎両部大日如来を本尊とす

明福寺

禪宗本尊地藏

福王寺

禪宗本尊觀音

長源寺

禪宗本尊觀音湛慶の作なり

辻堂七ヶ所

古廟

土俗傳て云土御門ハ陵なりといまさ
考ヒ

来待石

民家より十五町深山ハあり凡此山の
地中悉石なり世人所謂来待石是なり
村中石工斧鑿をもつて是を斫石橋石
碍柱礎磴石等ハつくる

上来待

大森三社明神

大物主神事代主命五十猛神をはつる
風土記ハ載る支麻知社是なり縁起れ
し故ハ鎮座由来分明ならヒ中ハ社一
間ハ七尺左右一間四面なり天正八年
完道八郎源政慶上菅ヒ也ヒより正保ま
て修造ハ棟札あり正月七日御田植の
神事九月十八日御幸神樂

世那賀明神

神号いまさ考ヒ

屋風呂明神

伊野大明神

客明神

御内明神

盤船明神

八幡二ヶ所

荒神三十五ヶ所

本宮明神

月讀命をはつる勸請年代未詳永禄五年上葺れ棟札あり本社一間四面東向祭禮十月廿八日なり此所を多根といふ

神戸明神

日御崎

荒神

菅原天神

菅公をまつる本社一間四方西向拜殿四間半三十六人の歌仙をかけ奉り隨神鳥居あり正保三年寛文三年太守源直政公再建せ負享年中太守源綱近公修造の棟札あり二月廿五日十月廿五日七坐の神事千度の祓あり此里を菅原といふ昔菅家はれ素性しのふ所なり社邊梅兩株あり一樹枯るときも又自生してなかく二株を減せも花開て清香あり其色淺紅なり祠官語て云菅公幼稚れ御時戯よ梅の枝を糸ふて貫あつめ植さまふ故ふ今ふ到て此梅の實よりいさき孔あり偶其實をうゆきとも更ふ生せも其の肄を継とも つらもつて仰て皆神徳也といふなり柳菅神々其先天穂日命より出奉まひ野見宿祢の後胤なり元来野見も菅公れ姓

ふして代々此州ま居しゆふごと良以
有なり系譜縁起ふ詳なり彼縁起ゆ先
君源綱隆公ゆ寄進なり

伊勢宮

和名佐明神

荒神十五ヶ所

岩屋寺

真言宗美瀧山と号ち本尊弘法自作ゆ
霊像なり寺ゆ後ま巖窟あり窟中ふ三
間四面ゆ堂を造入ちて薬師観音不動
ゆ三尊を安置ち行基ゆ刻彫なり山頭
ま飛流あり水色清々として林間白布
をさらせるゆとし瀧ゆ下ま藏王權
現の小社を建北山權現勸請の祠もあ
り所々の高岩ふ梵字を彫付古木森々
たして誠ふ希有ゆ霊場なり

寶藏寺

多根といふ所ふあり本尊薬師如来外
ま不動堂一宇あり

十王堂

和名佐といふ所ふあり

神宮寺

大森といふ所ふあり本尊觀音

阿弥陀堂

佐倉といふ所ふあり

不動堂

古城山

此城山を寶名塚といふ城主たりしと

白粉石

大森といふ所ふあり器物を焼藥とす

烏帽子岩

高さ一丈三尺古よりよ多根のゑはし岩

といふ

西来待

来待川

風土記ふ載る所ふり意宇郡和名佐よ

り出て菅原佐倉大森ふ流東来待西来

待れ中間を経て海ふ入

大野原

土御門御幸れ所なりと俚民語侍とも

俗説信しがたし

天宮太明神

天御中主命を祀つる本社一間四方西

向なり天正年中造立れ棟札あり祭日

十月十七日

荒神十八ヶ所

辻堂十ヶ所

穴

完道

此郷ゝ大穴持命逆ゝまふ猪れ像南山

よりあり其形石となりて猪ふ異なるこ

となし完此は志肆といふ猪又志肆と
いふ本朝古来は通稱なり道々路なり
和訓是と地といふ完道の猪路をるこ
と風土記は載故は郷の名とも

湖

竪六里横三里は大湖なり是を完道湖
といふ其地の佳景をるや砂際は白鷗
岸下は金鱗飛をは躍をの雨小吟し月
小鳴未次は里は為り楯縫郡平田まて湖
上七里あり左右山つらなり廣野良田
眼をすきて芒へをは向々赤壁十六禿な
といふ湖中は漁翁釣夫往来し風帆商
船繁多なり謂魚し府外輻湊をる所な

祇園社

素盞烏尊をはつる故は吾勝尊穗日命
櫛樟日命田心姫命湍津姫命天津彦根
命活津彦根命市杵島姫をあをせはつ
るなり舊記は曰貞觀十八年神霊を爰
は遷坐を昔時僅民疫病をくるしむ初
て此神を祭て其病をは快く佐々木高
綱造し完道高慶再興を雨来世々は國
司其宗を變せを本社一間は二間北向
なり山を龍卧といふ松杉羅立し苔蘚
緑をしく其路嶮ならを肅詣する小便
あり庭前寂々として淳古は風あり六

月十三日より十五日まて祭祀あり由
来縁起は分明なり故は贅せす

稲荷

容明神

荒神六十三ヶ所

亀島明神

湖水は邊に一島あり是を亀島と号す
市杵島姫を祀つる寛文三年孟夏は初
なり仲秋にいたるまて大に旱魃して
國中は土人くるしむこと甚し故に諸
民爰に来て神樂を奏し兒童歌舞して
雩をするをもち耳雨滂沱として稼穡豊
稔なり農夫も野に杵臼婦も屋に謡時
に神酒を造立して六月晦日を祓おこ
なることなし俗人是を河下祭といふ
神燈今にいたるまてあるといふなり
抑此神の霊験奇妙なしして諸願成就せ
ものといふことなし

正定寺

浄土宗清高山と号す本尊阿弥陀立像
一尺八寸春日は作なり開山時代おも
も境内に観音堂一宇あり尊容春日の
作

西方寺

浄土宗本尊阿弥陀坐像二尺一寸春日
は作なり

専称寺

真宗本尊弥陀開基なれそ

雲松寺

禪宗海雲山といふ本尊大日如来坐像一尺三寸恵心ノ作なり左右不動毘沙門を桜そ寺前藥師堂あり十二神行基ノ彫刻なり

古城

永禄年中毛利元就當國發向ノ時此城を攻めふ城主完道五郎左衛門防戦ふおよそ以落城

古塚

塩治判官高定の墳墓なり

大松

完道一本松といふ由来なれそ

完道川

風土記ふ見へさる金山ノ奥大原郡堺より出て坂口を過完道佐々布ノ中間をなりき北ふ落て海ふ入

土橋

町ノ上ふあり

白石

志肆石

大已貴命追せふ猪の像二あり一そ長さ二丈七尺高さ一丈周五丈七尺一

も長さ二丈五尺高さ八尺周四丈一尺
といふ猪を追ひ犬の像長さ一丈高さ
四尺周一丈九尺其形石となりて猪犬
に異なる事なし白石本江村小祭て石
宮明神といふ風土記に載る完道社是
なり白石完道佐々布をあてゝ一郷
とも故小完道の郷内なり

佐爲明神

猿田彦神とはつる風土記に載る狹井
社なり本社九尺四方東向勸請暦數を
きも祭日十月十三日當社東ハ方高守
社あり天鈿女命を祀つる風土記狹井
高守社とあり神名帳に意宇郡佐爲社
高守社と記も是なり近来両神を一社
に遷せてはつり狹井二社明神と崇敬
せり

八幡宮

金山村に勸請

御内權現

下倉八幡

下倉小あり故小名とも

王子權現

坂口村小勸請

座王權現

白石本郷小あり

豊龍寺

禪宗金藏山と号す本尊十一面觀音座像長七寸大永年中まてハ桂隆寺といて金山城主ハ開基なり法名豊龍院殿心月普得居士の木像あり爰をそつて寺号を豊龍とあらせむ昔々大原郡東谷村より寺産寄附せらきけるゆ故ゆ東谷より此寺へハ山路今ゆあり是を會下坂といふ

教慶寺

禪宗慈眼山といふ本尊正觀音

鞍馬寺

禪宗天王山と号す本尊地藏菩薩なり寺内毘沙門堂あり

西成寺

禪宗金峯山といふ本尊阿弥陀如来

東光寺

山号開基ハきそ

辻堂八ヶ所

白石濱

塩治判官高貞三月廿七日都を出同晦日ゆ出雲國ゆ下着しぬきは四月一日追手ハ大将山名伊豆守時氏子息右衛門佐師氏三百餘騎ゆて同國安来の庄ゆ着すかてち國中小相ふきて高貞ゆ叛逆露顯ハ間誅罰せむせめ下向す敵所なり是を討て出しせらむ輩ハおひ

てゝ非職允下をいたゝき恩賞を申與る
きよしをひろうゝ高負一日も身をか
くゝへき所なけきも佐々布山より取上
て一軍せんと馬をゝやめて行けゝ所
より中間一人走付て申けるハ御臺公達
をゝ播磨ハ陰山と申所ゝて指殺御供
の人々ハこゝらゝ暖を切て死て候なり
高負是を聞命生てハ何ゝせむ師直ハ
敵ゝ成て思知せんゝ弘物をと念て馬
ハ上ゝて暖を切倒ゝ落て死せし所な
ゝ今土俗一生害灘といふ

古城

金山村ゝあゝ完道正重居城の跡なゝ

土橋

とうゝ川といふ

佐々布

大森明神

素盞烏尊をまつる二間四面西向なゝ
元亀三年修造の棟札あゝ祭日九月十
八日湯立神樂あゝ

熊野權現

丹部明神

圖象の如命なゝ

八幡宮

加茂明神

宇賀明神

容明神

建御名方命なり

天福天王

若宮

天照太神

荒神六十五ヶ所

妙岩寺

禪宗亀鶴山と号す本尊歯吹阿弥陀立像長三尺二寸左右小觀音勢至長一尺五寸開基志きを庭前ゟ泉水奇石あり高岩聳ゑ所ゟ亀岩とて大石あり青苔自厚して誠ゟ塵外ゟ絶景なり

太平寺

昌起山といふ本尊釋迦如来

觀音堂四ヶ所

古城山

塩治判官高貞都を落て當國ゟ下籠城ゑ謀を此城なり

宮原

古老傳ゟ曰高貞自害せし時木村源三高貞ゟ首を此所の泥土ゟ埋し深田なり今をちいさ池となり如何なる旱魃洪水ゟを不盈不減となむ

土橋

加茂部川といふ

伊志美

三社明神

延喜式伊甚神社と記せる伊自美村古ゝ出雲郡北内なり今意宇郡に屬せる風土記に載る伊志美社は是なり本社四尺五尺南向縁起と稱して一軸あり文字分明ならず祭祀正月十七日九月十九日

清見寺

禪宗萬松山といふ本尊阿弥陀古記棟札なし故に開基志れず

地藏堂

土橋

石見川といふ

雲陽誌目録

意宇郡下

楫屋　意東　上　下
焼島　波入　遅江　入江　二子　亀尻　馬渡　江島
山代　古志原
大庭　大草
春日　佐草
日吉　西岩坂
東岩坂　熊野
平原　忌部　東　西

意宇郡

揖屋

揖屋大明神

本社大己貴命なり此彦名命事代主命
なりあてせまつる左三穗津姫右素盞嗚
尊已上五神風土記に載る伊布夜社是
なり天正十一年大江朝臣元秋建立元
和寛永寛文國主代々造營棟札あり祭
日九月十八日七座神事湯立十二月晦
日幽深の祭禮あり此外年中數度の祭
一々あげてかぞへがたし祠官語け
ら〻當社の鎮座神代より今小いさな
所なれ日本紀に熊野諸手船と書そる

八此所の諸手舟の事なりといひつゝ
ふ世人熊野と書てゆやとよませ侍る
本字揖屋なり事代主命三島溝樴姫小
通のふ毎夜雞なきて別世まふ故小揖
屋意東出雲江太草春日多久島三穂關
小々今も雞を飼ふことを忌といへて三
島とハ三穂島ハ事なり鳥居ハ前一町
去て海中小神石あり小玉石と号も神
詠なりとて

揖屋ハ宮御前を照も小玉石

手ゆゝとまと神ハぬらさし

本社より五町ばかり西ハ鈴掛松あり
日暮れ松ふ七月阿太加夜ハ社へ神事あ
て此松ハ鈴をかくる故小名付神主も
太宅氏なり代々神水を毛力て相續も
則社邊ハ神水ハ井あり此所を宮氏山
といふ世俗此水を飲事あさ〻も神寶
と稱して太刀三振鉾三本弓五張鎧一
両神鏡三面あり

脚摩乳

手摩乳

太神宮

田ハ中小伊勢森といふあり往古も社
もありけるとも今ハ祭禮の時俄ハ竹
代もつて祠を作十二月晦日也の刻悪
鬼を逐神事あり神巫秘してあらてさ

を此夜里民祭火をみる事を恐て門戸
を閉て往来せず
三社大明神
味耜高彦根命天雅彦命下照姫をまつる
御田崎三社
経津主武甕槌稲背脛をまつる
容明神
武御名方命なり
大内権現
天文十二年大内義隆ハ嫡子左京大夫
義房を大将として冨田ハ城へ進發し
ても敗北して義房も此邊より舟ハ
乗島根郡へ渡ひとも折節難風ハ向て
舟を乗沈て死も霊魂往来ハ馬上をとと
ひ故ハ西揖屋往還ハ路頭ハ小社を
造權現と稱す義房ハ一条關白房家公
ハ次男義隆養育ハ嗣子なり
荒神十ケ所
東泉寺
真言宗醫王山と号す本尊薬師行基ハ
作なり開山年暦おきも東ハ井あり旱
魃ハ時水の増減なし故ハ寺を東泉と
いふ護摩堂一宇不動を安置す鎮守稲
荷社あり柳此神々洛陽東山ハ稲荷を
勧請して星霜一百三十餘年なり元禄

年中住僧祐雄京都ニ比ヲ愛染寺ヨリ
ヒ社禮秘法明神ハ尊容唵枳尼神ニ白
狐妙夫ヨリ傳来社ヲ建立シ神ヲ遷セ
てまつる故ヨリ近國遠村ハ老若男女群
參崇敬せヒたいをもつて神力弥厚靈
驗猶高し社器神寶日々ニ新ニ下ル善
はくし美つくせヒ

十王堂二宇

觀音堂二ケ所

藥師堂二ケ所

地藏堂二ケ所

阿弥陀堂六ケ所

大岩

かんたやくといふ所ヨリあり

土橋二ケ所

意東上下ハ

和名鈔ヨリ筑陽郷と書セる所々此村ハ
事なヒ焼島ヘ海路一里あヒ

大森神社

事代主尊をまつる延喜式ヨリ筑陽神
社とあり天正八年三月屋彈正忠建立
ハ棟札あヒ往古ハ此處ヨリ十町計
南田圃の中ニ社あヒ寛文六年今ハ宮
地ニ造營セ山を明福と号セ祭日八月
十六日神事畢て近里遠村ハ士人群參

して相撲を催せ昔ゝ流鏑馬なとあ
りしとなん今ゝ其事絶ぬ又祠官語て曰
意東ハ町南ハ濱を磯近といふ東ゝ筑
陽川なり土人是をふくゆ川とゝいふ
又川上ゝ松原あり荒神をまつる此邊
をうちてハ濱西ハ和哥佐の濱操屋意
東ハ境なり是より袖師浦まつゝけて
古歌讀人為らゝ
松原や折出なゝへ濱千鳥
友よふ声ハ磯近よきく
心ゆく和哥佐ハ濱ゝ出みきハ
袖師ハ浦ゝ神やましまゝ

荒神

本社ハ左ゝあり
天神
本社の右ゝあり
上の客
本社ハ去こと二町餘南ハ森ゝ経津主
神をまつる
下ハ客
本社を去こと一町半武甕槌神をまつ
る
右上下ハ森の中へ女人を忌て入ゝ其
謂為きゝ祭日八月初巳ハ日なり五尺
小棚ハ架し幣を立神事をつとむ
十二社權現

祠官傳て紀州熊野ハ神同躰なり濱意
東より四十町餘奥意東ハ社あり永禄
年中毛利元就尼子義久と合戰ハ時此
神ハ祈願して勝利を得せしふ故ハ元
就ハ陣所境良木山よりつり崇敬し
ふ其後今ハ地ハ遷座なり鎧甲を納て
神寶ハ第一とす祭日九月十九日

川本社

寛文八年造營の棟札あり

岩崎明神

杉谷明神

立岩明神

三神社なし古木高岩ハ注連をひき九
月十九日祭事をつとむ

幸神

神子谷山といふ所ハ鎮座なり

桒光寺

真言宗古儀派楊瀧山と号す本尊阿弥
陀座像一尺八寸行基ハ作不動一軀立
像一尺五寸智澄大師の彫刻なり柳當
山開基ハ五百餘歳ゟ治兼年中より
天正ハ頃まてゝ衆徒七坊寺ハ有て勤
行懈怠なく宗風全盛なりしハ漸々ゟ
衰微して今纔ハのこゝ古来ハ傳記
寺寶先年失却して由緒詳ならす全相
寺蓮臺寺浄泉坊圓正寺高德寺長林寺

零落して六ケ寺の本尊今此寺にあり

地蔵堂

弘治年中波多野又五郎建立せ

大日堂

本尊長さ三尺行基ゟ作星上寺観音と

一木同作なり天正十一年三刀屋彈正

忠造立の棟札あり

高徳寺舊地

民家より二町ゟ山頭小小き草堂

あり藥師を安置せ世俗語ける今古

此所一夜半ゟ海中ゟ龍燈あり於ゟ

し誠ゟ無双ゟ霊佛なりと祈願せる者

多

宗昌寺

真言宗圓通山と号せ本尊阿弥陀立像

二尺六寸行基の彫刻なり縁起傳記紛

失して来歴なきせ

正安寺

地蔵を安置せ

大日堂

地蔵堂

古城

福浦山といふ波多野又五郎居城なり

波入川

風土記ゟ載る筑陽川なり荻山ゟ北ゟ

流とあり荻山ゟ奥意東の山ゟ星

上山境良来山の麓より流出て下意東
は海中小入此間二里ばかり山なし

岩屋

筑陽川は下灘より五十間上にあり

境良来山

永禄六年毛利元就々尼子は本城冨田
をせめむとして三万餘騎を引率し此境
良来山へ昇て營を張城中是を見て先
年大内此山に登て敗軍せしと吉例そと
呼て人數を出して合戰を五六日あり
て寄手島根郡へ引とて恙なかりしは
外形山

古老傳に曰此處を石原山と号す元就

境良来山に陣とりひ此山に本城を
築所に番兵をとの志ありて元就樣
より洗合へ出張なり

三

焼島

世俗大根島といふ周二里餘志島なり
蘿蔔は風味よろしけれとかくいふる
や古老語傳歌

出雲なる多久島せかも多の姫木を
きのしは里に何をせくらむ

昔伯耆の國人と出雲は國人と此島を
あらそひ訴ひるとき此古歌にて角
論に勝ときとそ出雲に訴に出雲に

むハ多賀時隆といふ人なり多久島も
大根島ハいふ木梨村里ハ伯州弓濱米
子邊をいへり
大塚山
東西百二十間南北八十四間ゑ茅山あ
り此島の中央なり
波入浦（揖屋ノ江ヨリ海上二十二里半）
三社明神
大己貴命事代主命美保津姫をあてせ
まつ其縁起なきハ鎮座年歴ゑきも
慶長十四年上棟祭祀正月十三日奉射
ハ神事ハの外年中數度の祭あり
若宮
關殿社
容明神
辨財天
二月初巳ハ日神樂御供を獻も
八大荒神
亀崎ハ遷座十一月八日神事あり
觀音寺
禪宗關山泒白華山と号も
全隆寺
禪曹洞宗寶久山といふ本尊如意輪觀
音安阿弥ハ作なり寛弘年中ハ開基な
りと談侍とも傳記なきハ由来ゑきも

圓通堂

地藏堂

觀音堂

阿弥陀堂

経島

南北沖小あり

遅江安来波入海上二里餘十二町

元宮

三社明神北社古ハ此所まあり御手洗井御腰掛石神北潮掻といふ所もあり

六月十五日十一月十五日祭日とも

松崎明神

祭日右小おなし

荒神

祭祀十月廿日

大将軍

祭禮十一月十一日

東樂菴

本尊觀音境内ハ岩窟あり竪四尺五寸横八尺五寸深さ右ほとも

海前菴

本尊大日如来

阿弥陀堂

觀音堂

地藏觀音

石佛なり高岡といふ所あり

入江（馬瀉ヘ海上二里上宇部尾ヘ一里二子まて二十一町）

春日大明神

経津主武甕槌天兒屋根天照太神四座

此神なり祭二月廿日九月九日ふり寛

永十四年建立棟札あり

三社明神

大己貴命事代主命美保津姫況配まつ

る天文十八年建立なり社前に一圍あ

まり此老樹二株あり是を鳥居松とい

ふ祭禮年中五度あり

若宮

辨才天

二月初巳此日神事あり

荒神

祭日十月三日

藥師堂

觀音堂

二子（本庄ヘ海上一里寺津まて五町）

地神社

瓊々杵尊此はつる永正七年造立棟札

あり神の潮樫灘といふ岩あり俚民ゆ

く事なし

若宮

荒神

十一月十一日神事あり

善慶寺

禪宗恵泉山といふ本尊阿弥陀鎮守八幡

阿弥陀堂

松島

此島海中にあり

寺津（手角へ海上一里亀尻まて三町）

地藏堂

亀尻（下宇部尾へ海上一里馬渡まて八町）

観音

石佛なり二本村といふ所に安置せ

地藏堂

馬渡（森山へ海上一里余江島まて海上四町余）

阿弥陀堂

江島（橋迄十三町伯州渡海上八町）

祇園牛頭天王

素盞烏尊なり慶長七年建立棟札あり

縁起なし故に由来詳ならず

若宮

石殿
今宮
阿弥陀堂

山代

山代ハ郷ハ大宍持の御子山代日子命
座ス故ヨ村の号とス
山代山
風土記ヨ載ル神名樋山なり西北廿町
九間あり俚民茶磨山ハ古壘といふ村
井伯耆守ハ城跡ゐり
高森明神
風土記加豆比乃高社とあり山代山ハ
半腹ヨ森ハ鎮座とス
若宮
伊弉諾社
寛文元年秋七月池魚ハ災有て正殿末
社まて灰盡故ヨ社記神寶悉亡今ハ木
社二間四方南向内殿モ南向北ヨ向て
拜し堂てまつ殿拜殿二間四面廳屋二
間ホ五間籠所二間四方廊下一間ヨ二
間御供所二間ホ三間閣神門一間ヨ三
間鳥居二基太守源直政公ハ造營なり
三月十七日九月十七日祭禮あり社地
小高守神社兒守神社瀧若宮を祭谷小
社なり馬場三町てゐり左右老松あり

聖岩

伊弉諾本社より三町東に森有り古老傳に伊弉諾伊弉冊に二神此岩に下神火を取のふといふ

真名井瀧

本社より五町東にあり

真名井荒神

本社より六町東にあり風土記に載る

真名井社是なり

舜叟寺

禪宗美休山と号す本尊十一面觀音堀尾山城守忠晴の御母堂清太院に守佛なり鎮守天照太神

四王寺

風土記に曰山代郷中新造院一所飯石郡少領出雲臣造所とあり是なり歟但し今々寺跡てうなり

古志原

此所近年民家を作夏より秋まい生るまて牛馬に市を催土人群集す

高守神社

延寶年中勝部氏勸請す

觀音堂

大庭

大庭社

伊弉冊尊ハ神廟なり正殿東向内殿右より入て西ゟ向ひ内殿自餘ハ社とハかたきと祠官語しゝ此神伊弉諾尊ゟ先ゟ神退ゟ故ゟ神魂明神とも一り一書ゟ曰紀伊國熊野有馬村ゟ葬とも出雲と伯耆ハ界比婆山ゟ葬とも兩説なり女神かくれゐしゝと男神追つきて逢ゟふよゝもつひくいせとゝ宣故ゟ男神さゝなしとて歸ゐふ事日本紀ゟ詳なり古事記舊事記ゟ比婆山ゟ葬ゝい一と昔ゟと此所を比婆山と号し侍とも両國ハ境ゟあらも

或人の曰比婆山ゝ能義郡毋里郷日波山なと稲訓波おとかし婆ゝ八雷ハ神をして伊弉諾尊ハ追来時尊十握劔を抜ゝ背ふ所ハ同郡劔山なと悪魔ふ桃三顆を擲ゐふ時悪鬼おそきて歸去所を来魔返といふ伊弉冊神身親追来ゐふ時千人引の磐石をもつて坂路を塞所ゝ日吉村劔山と岩坂村神納山とハ中間ふあと奈美尊ハ神魂静坐所を神納山と号ゝ其ゟと十五町去て今ハ地ゟ遷ゟつ故ゟ日波村ゟ本社なし天正年中大江輝元造營ハ文あり其後代々ハ國守建立しゐふ凡神社ゟハ門客人とて

両神あり此宮ハ門客人一神あるを
伊弉冊宮なきハ男神てゝ客人と成
せまふを毎年祭祀正月元日より年中に
祭式品々あり毎歳十一月中に卯の日
杵築國造此宮ハ来新嘗會を遂おこな
てる是古来より神事なり百番に舞
火切あり此時火刻板六枚を熊野忠宮
大夫持参すきハ國造より鯔を出ふ
時より魚に大小をぬきらふ是又祭禮に
法式とて杵築國造代替火嗣といふ色を
當社ハ来てに事なり一年隠岐國後鳥
羽院の御墓へ勅使水無瀬中納言氏成
下向に時此宮より参りて詠し出まふ

短冊

めくりあひし神に慮やうに橋に
初を志るくし世をわふれぬるな

天正年中豊臣秀吉朝鮮征伐の時細川
玄旨筑紫へ下りふとて此州へ立寄當
社よて

世にゝみや左右ふめくりを志る
契出へせぬ天のうき橋

神前より古釜あり新嘗會に時釜の神事
あり

神寶

太刀一腰 行平 毛利輝元寄進
太刀一腰 定秀 尼子晴久寄附

證文數通　吉川駿河守元春
中井駿河守綱家

貴布祢社
稲荷大明神
外山神社
三社とも小本社は右ふあり
杵築社
伊勢宮
熊野社
蛭子神社
四社とも本社は左よあり
門客人
荒神

森伐まつる社なし
速玉大明神
本社なし杉をまつる
高間神社
大鳥居と号ス
涼殿
明神降臨ハ松をいふ本社は東よあり
假宮
下ハ原といふ所よあり社ふし
若宮
同所よあり
荒神八ヶ所
村中よあり

幸神三ケ所

村界まあり

正林寺

禪宗德應山と号す本尊十一面觀音

寶巖寺

真言宗尊平山と号す本尊馬頭觀音な

り境内三間四面の草堂あり觀音を安

置す運慶の作なり當國順禮札所の廿

四番靈佛なり往昔鐘松山逢音寺の本

尊なりて古記證文今なを存せり淨音寺

頽破以後此寺まあり

藥師堂

本尊慈覺大師の彫刻なりて秘佛なり

東淵寺

本尊千手觀音作ありき寺内小堂あり

觀音を安置す意宇郡中順禮新札所な

り

龍雲寺

本尊十一面觀音郡中新札所なり

觀音堂

ぢん原といふ所まあり新札所なり

植松堂

本尊藥師なり古笠井長春寄進せしと

いひはさふ

辻堂四ケ所

地藏十王を安置す

長者原

往古笠井長者といふ者居住せし故よ所
此名とせ長者の屋敷跡よ采塚茶磨塚
なんといひ傳所あり倭俗冨有人を
長者と稱せ

土橋

此川を舟底といふ

大草

風土記よ曰日吉岩坂大庭佐草を大草
一郷とせ青幡佐久佐日古命坐故よ大
草と号せ

六所社

伊弉諾伊弉冊天照太神月讀尊素盞烏
尊蛭兒命をまつる毎歳三月五日熊野
別火奉勤して多花の神事あり往古よ
せ勅使もわたりけるとなん神前此川上
浅音無川といふ古歌よ

ならせ行川せ来ふけ音なし此
水上きよき伊勢此神々
祠官此傳記よ此歌行平此詠なり川上
よ伊勢宮あるゆ

青幡佐草日古命

須佐乎命此御子なり

王子宮

伊勢殿

門客人

天神

菅廟なる祭禮二月廿五日

八幡社

仲哀天皇をはつ敬二月十五日祭祀あ

る

牛頭天王

素盞烏尊なる祭禮二月十一日

荒神十七ヶ所

瑞雲寺

禪宗龍上山といふ本尊地藏春日仏作

なる境内大日堂觀音堂ある開基然年

歴たきそ

岩屋

廣さ七尺四方觀音仏木像を安置そ由

来詳ならそ

辻堂四ヶ所

大草川

此川熊野山より岩坂日吉大草阿太加

夜村より流入風土記に載る意宇川是な

る俚民大庭川或ハ出雲郷川とも云ふ

径三十二間

大土手

四百八十五間

小土手

百六十間

春日

春日明神

武甕槌経津主ノ神ノ祭慶長年中佐々木氏造立ノ棟札あり祭禮九月廿九日

牛頭天王

素盞嗚尊ナル祭禮二月十一日

摩多羅神

右同尊ナル九月九日神事ヨル

地藏堂

古城山

城主ハ未ダ

佐草

八重垣社

風土記ニ佐久佐の社あり本社稲田姫ナル素盞烏大己貴ヲ配合してまつる

左ノ社ハ脚摩乳右ノ社ハ手摩乳ナル

古素盞烏尊敏の川上ふいよりくだり

國つ神脚摩乳手摩乳ノ童女稲田姫ノ

ヲ八岐の大蛇ノ斬のしたまふ

清坐ふいさり宮を建むと宣ふ其地ヨ

リ雲ヲ立ち騰ハ

夜ふ茂多苑伊都毛夜覇餓岐苑麻語

昧爾夜覇餓枳苑倶盧贈廻夜覇餓岐

廻

稲田姫ノ返歌ヨ

日茂句禮奴媒妹迦の登與波夜登知豫
固顧盧能夜弥爾和禮磨登播須奈
此御歌ゝ神道ハ極秘ニて故ニ好色ハ
家ニ傳てらて當社神秘ハ神詠なて
古今ハ序ニもすさハをのみことより
みそそしあまりひをそしハ
と貫之ゝ書きりかくして尊稲田姫と
相とゝニ遘ハ合し大己貴と生ふ
きよて此所を八重垣と申侍女ゝおく
ふかく居るゝハなき深国ハ心なる
一し本社東向内殿西向なて扉を開ゝ
正面ハ壁ニ天照太神日御崎ハ神ハ尊
像南ハ方ハ壁ニ素盞烏稲田姫の霊像
北の方ニ脚摩乳手摩乳なり是ハ昔巨
勢ハ金岡ゝ霊夢ニよて寫奉ぶ御影
なてといふ造立年代ハきゝ近来大江
朝臣輝元再建ハ棟札あて正月五日大
蛇網とて藁をゝつて大なる網をゝし
らへ的を立ハ上ニ網を引左右ニ幣
を立祠官的を射る神事なり八重垣と
ハ北垣万定垣秘弥垣万垣袖垣大垣西
垣中垣とて八ハ名あり四月三日ハ祭
ニゝ本社ニて此御垣の二本ハ楢の下
ハ陰陽ハ神光臨ならせゝふと申侍社
司等大麻ハかし鉾を持鼓をならし
清酌を御垣ニ灌ぎてまつる神樂歌ニ

曰

千早振それ八重垣の榊葉は
心のゝ為め伐かけぬ日もなき
やうさひをてまつる十一月中比卯の
日ゝ八重垣伐毎年修理し東西ゝ榊
をそて御酒を備亦己比日の祭是をみ
らくし比神事といふ門客人そ二神あ
り本社と八重垣の間ゝ流ゝ川を大神
川といふ建神川と此川ゝ少山へ入
て八比垣をすき谷へくをそ池あり鏡
の池といふ稲田姫毎日御影を移ゝふ
と也池比上ゝ小社あ鏡比宮と号そ
稲田姫をまつきそ又山比奥ゝ巖洞ゝ

り人見ゝ事あらさるなそ偶々誤て
行人あきそ忽死そといひはふ風土
記ゝ宇賀郷磯ゝ西方ゝ窟戸六尺そ
ゝ内ゝ定あり人入事を得そ深淺を
あらそ多々此ゝいさゝ比必死そ故
ゝ世俗古ゝ黄泉比穴此所なそと号
そ古事記黄泉比良坂ハ出雲比伊賦夜
坂なそと日本紀ゝ所謂伊弉諾伊弉冊
を追て泉津平坂ゝいさゝあるゝ是
なそといへそ此窟穴々黄津平坂ゝや
さきとも有ゝ文ゝ泉津平坂ハ復別ゝ
所有ゝはらそ死ゝ比そして氣絶の
際をいふゝとあきゝ慥ゝ此所を黄津

平坂とも定かもし當社よりてまつり
し短尺ともおいし其中小水無瀬氏成
郷参詣してよめる
思入ぬの八重垣れ一重ぞよ
こゆるもりアの言れ葉もりな
神れ代の昔をかくる色なきや
白ゆふ花のさくさめれ森
細川玄旨れ短冊とて
更よ今みるも妙よし古衣
ぬれ八重垣も杉れ志るしか
宗艱といへ孔連歌師此社よて
若草れ妻こめ小なく雉子哉
花もそれ八重垣かこふ宮木哉

前國司堀尾出雲守忠氏社邊小生孔竹
小彫付タふ發句
神垣や八重立ぬふの霞ゆな
鳥居れ前よ連理れ椿あり
御崎社
伊勢宮
客れ森
八重垣東西よ森あり荒神をまつる
常徳寺
禪宗醫王山と号ち本尊藥師運慶れ作
寺内小堂あり大日如来を安置ち
地藏堂
此堂昔よ了牧なし庭前孤きの老樹わ

り此邊は蟻なし故に俚民蚊なしの堂
は蟻ふしけ森といふ
辻堂六ヶ所
土橋
尾尻川といふ
日吉
山王權現
伊弉冊尊をまつる縁起社記なし故に
垂跡は歴數を考祭祀卯月中の申に
日八月廿八日なり延寶年中建立棟札
あり本社の北は四圍てりてけ老松あ
り是を神木と唱傍は荒神の祠あり麓
は意宇川なり孔山王池あり
劔山明神
延喜式は能利乃神社と記し風土記は
載孔詔門社是なるべしや日本紀は曰
伊弉諾尊伊弉冊尊を追て黄泉に入汚
穢國にいされとて急に走ぬる時に
伊弉冊尊恨をまひて泉津日狹女を遣
し伊弉諾尊伐追て留まつる故に劔を
ぬきふる所なりとて劔山を号し此山
清浄峰岨にして麓に意宇川流岩下に
窟あり人入ことなし俚民かいて云
社司の遠祖内藏大夫といふ七十一百
日身を清窟中に入三日を過て穴口に

て出里長問ぬきとを深く秘して
語らを是をつて窟中小入こを偽な
らむを疑内藏大夫是非なくかふらん
とを時舌頭うこりを両眼ぬふるゝ
ことし故よ詳ならを元禄年中建立ゝ
棟札あり祭日九月廿八日なて

藤森社

神号ゝきを桜を るゝ城州藤の森ゝ神
ゝ勸請を るゝ

神納山

剱山を去ること五町をゝり社職傳て曰
伊弉諾尊を伊弉冊尊追来ぬひ神魂自
静坐所なて故ゝ神納といふ此所よて
大庭よ遷て神魂明神といふ

荒神三ヶ所

辻堂三ヶ所

古壘

城主ゝきを

くをんを ゝ池

往十五間池ゝ由来ゝきを

勝負谷

永禄六年ゝ春元就尼子ゝ責ぬふ時山
中鹿之助とて尼子方よて隠なき勇士
あて高野監物を鑓を合て監物を討捕
所なり故ゝ勝負谷といふ川ありとゝ
て二十間

切通
此間廿間ばかりて左右高山なれ岩を切
ぬき水を通せ
剱川
径十八間ばかりて
西岩坂
小坂明神
根裂(ねさくの)神をはつ縁起なし故ゑ鎮坐ゑ
きゑ慶長十三年建立棟札あり社邊古
樹おゝし五月五日神田植九月十九日
七坐ゑ神事
王子權現

金田明神
牛能宮
牛頭天王をまつる
荒神十九ケ所
幸神
一ゑ原といふ所にまつる
山神
清藏谷といふ所ゑ鎮座
清水寺
禪宗月叟山といふ本尊十一面觀音
圓通寺
禪宗照應山と号せ本尊觀音鎮守天照
太神

辻堂廿一ヶ所

元田川　観音　薬師　天照

徑二十五間

大日川　観音

徑十六間

東岩坂

豊田明神

盤裂神ヲハつる寛永十二年再興棟札

あり祭禮五月五日九月廿九日なり神

寶弓三張ありて寄進ゑまた、

若宮

河内明神

天神宮

星上山ハあり妙見八幡を同社ゑまつ

ゑ貞享年中建立ゑ棟札今なを存せて

荒神三十五ヶ所

幸神二ヶ所

山神二ヶ所

星上寺

真言宗安德山と号ス本尊十一面觀音

坐像二尺五寸行基ゑ作なり左右不動

毘沙門立像長二尺鎮守天神社二王門

あり風土記ゑ載る意宇郡高野山々此

所なり柳當山々安德天皇勅願ゑ梵宇

四十余院を峯頭ゑ建立して滿山ゑ衆

徒効験日々新なるしるし物換星移寺院
頽破して今纔に此草堂をかりそめにき
る國中順禮札所は十七番なる毎年正
月十一日東西岩坂の土人三尺ばかり鏡餅
六を調同十四日星上佛前に供せ十六
日白餅を當人の家にうつし相あつま
る是を當定ばかり會といふ蓋明年佛事に
幹せるものを定るの謂なり十七日僧
侶は勤行闕如なし本堂より二町ばかり
る去て星の池といふあり松栢森々せ
る中に水色清々せり山徑二十町のか
れて堂前まいせる南の方なかく山を
よりひ古木羅立して通しかゝく遥に

海をのぞみ隱州伯州の山をみる西は
松江ば湖水遠々として泊舟蓬ばつら
ね晴日網を曝風景あまねる靈場な
る
増福寺、
禪宗竹雄山といふ本尊藥師如来なる
古城山
城主年暦未詳俚民此山を禪定寺と
いふ
黒岩川
徑三十間
要害川
徑二十間

池

六間四方あるしやく池といふ

ときいは

大石二あり古よりときいはといふ由来

たもと

小麻加恵利坂

古老傳に曰此所ゝ伊佐奈枳尊雷等

追来とき道辺邊に大なる桃の樹あり

伊弉諾尊桃の樹の下にかくれひて

桃に實成りとて雷に欒をなへて雷共

皆退走ぬ此桃を用て鬼成避の縁なり

故に小麓返といふ此邊に大なる蛇あ

り五月かゝらゝ出ぬ俚民是を梅雨左

衛門といふ敢て人成おそれゝ人を傷

ゝ古より爰にあり

熊野

熊野社

延喜式風土記に熊野大社と書ゝ是す

ゝ成ち速玉男車解男伊弉冊三神をあ

りせはつりて上に社といふ天照太神

素盞烏五男三女を合て十神をまつり

て下に社とゝ世人上に社を熊野三社

といふ下に社を伊勢宮ゝいふ本社東

向内殿北向なり故に南ふびゝひて拜

ゝてまつる慶長年中在原忠晴修造正

保三年太守源直政公修覆ハ棟札あり
祭祀正月三日奉射ハ的九月十四日御
供ハ五膳を獻して七坐ハ神事を勤花
の時又花をそつてまつり鼓吹幡旗を
用歌舞してはつる一々勝記す所なり
そ往古此村ハ五社あり元亀年中兵火
ハ罹て烏有となる今ハ至り其跡ハ幣
を立神酒を備そてまつる本社の上を
御笠山といひ空の社あり此所岩壁な
り落水あり明見水といふ眼病を洗と
きそ明をうるといひつさふ十一月中
ハ卯の日大庭ハて國造火伐嗣とき火
剣板とて長さ三尺二寸火をそみ出そ
木を此山ハ出せり神職を別火と号
し鈴木氏なり大草六所明神多花ハ祭
をそ當社なり品々行列ハて此別火つ
とむるとなん神寶太刀三振寄進おき
そ弓二張
素盞烏社跡
隨神
火置社
いまだ考そ
王子社跡
熊野御崎社
藤代明神社
丹生社跡

雲羽明神社跡

結神社跡

五形霊神祭所

常栄寺

禪宗月窓山といふ本尊釋迦春日社作
なり永禄年中毛利隆元新建せし地なり
長州大寧寺塾山道仲和尚を請待し高
開山とせ則隆元の法名常栄大居士と
いふ是をもつて寺号ゝせり隆元藝州
一ノ一りをひて旗下天野隆重を熊野
の城を置或時隆重當寺ふ来遊ス月明
窓を移す風色奇なり故ふ月窓山とあ
らさむ天正年中隆重卒去法名一峯圓
月居士といひて寺ハ古墳あり縁起棟
札往昔焼失ス古老傳のみなり

普濟寺

禪宗那智山と号ス本尊觀音春日社作
なり順禮札所なり

辻堂廿五ヶ所

古城

二大石山といふ弘治三年毛利元就當國
發向ス時此城を攻さまふ城主防戰ス
およそ一子岩松丸を質ふいそし和
を乞て解ぬ

古城

水手山といふ天野隆重居城なり

くはれ山

熊野大神の社なしとて檜檀有り風土記に見へさて今々賣炭れ翁おゝし

平原

三島明神

大山祇命を始つる勸請年代知きて本社々守留山といふ高山ふあて元禄十六年建立れ棟札あり十月朔日れ祭禮なて

金多明神

素盞烏尊なて寛永十四年造營棟札あきて寛永以前の勸請なて魚し祭祀九月朔日

伊勢宮

天照太神をはつ新遷坐れ年歴知きて寛文八年造立社邊古木大石多十月二日神事あり

幸神五ケ所

正禪寺

禪宗白雲山と号て本尊釋迦

辻堂五ケ所

長尾山

砥石いつ孔

ゆけ堤

用水なて土手四十三間

忌部東西

風土記ニ曰國造朝廷ヘ參向ス時御休し忌ヲふ故ヨリ忌部といふ和名鈔ニモ忌部の郷と記モ

三社大明神

天照太神素盞烏尊春日大明神をまつる古記なけきて勸請の暦數ハきモ本社九尺梁二間東向なり慶長二年より貞享三年まて造立棟札あり祭禮正月七日九月十九日

久多美大明神

大己貴尊をはつ秋風土記ヨリ久多美社とあり

七次明神

日野目天神

荒神三十ヶ所

慈恩寺

禪宗妙心寺派度生山といふ本尊觀音なり古ハ曹泉寺と号して當寺より三十町山奥なりしを和田氏諸堂を此地ようつして慈恩寺と改号し春龍和尚を中興とモ境内ハ天神社祠あり門前に小堂藥師を安置モ鎮守權現なり古老傳ヨリ曰往昔和田戈小といふモ此偏ヨ權現を信して毎月伯州大山へ詣る事多年苦行精修モ歸路かるらモ彼山

比老樹一枝を折来て吾山にさしをき
しが樹林鬱蓊して今はとくくく十町
ばかりの森となる或時才小登山せしに
一老人石をもつて才小に授て曰汝が
誠懇神よく是を享令齢をてに遅暮に
およふ後詣を跂事なかき國に還て此
石を奉祀せて則大山にいはゐおな
しかるへしといひ畢て去才小感仰尤
ふかし遂に歸て祠を建神石を納て權
現を勸請せ俚民山神と号して崇敬せ

観音寺

禪宗森縁山といふ本尊十一面觀音な
り古愚和尚を開山に一祖とせ往昔回
禄に罹縁起棟札焼失せ故に由来詳な
らせ

普賢寺

本尊普賢菩薩なり寺門零落して今せ
小堂一宇あり

正覺寺

天台宗石水山といふ本尊無量壽佛な
り尼子義久の建立といひつたふ

藥師堂

金藏寺法傳寺といふ二ヶ寺の古跡な
り

観音堂

居光寺觀花寺といふ二寺の跡なり

毘沙門堂

長栄寺といふ寺跡なり

辻堂

三十四ヶ所

内閣文庫
内閣文庫
内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan